



第 68 号 冬 発行月：令和 3 年 1 月
四天王寺和らぎ苑 季刊誌

も く じ

施設長より新年のご挨拶

取組 NOW

～和らぎ苑の「取り組み」ご紹介します～

夏のレクリエーションレポート

和敬の集い



新年のご挨拶

施設長 塩川 智司

新年明けましておめでとうございます。皆さまにはご健勝に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

振り返りますと昨年は、新型コロナウイルス感染症の流行に終始した 1 年でありました。昨年 1 月 15 日に中国武漢市に滞在歴のある男性から国内初の患者が確認され、1 月 28 日には、武漢からの観光客を乗せたバスの運転手が日本人として初めての感染者となったのをかわきりに新型コロナ感染の報道が増え、2 月になると横浜に帰港したダイヤモンドプリンセス号の状況が連日報道されました。大阪でもライブハウスでのクラスター発生があり、感染は全国的に拡がってゆきました。ライブなど催しもの、各種集会が中止になり、東京オリンピックは延期、高校野球も戦後ではじめての中止となりました。不要不急の外出を避けるよう求められた“コロナ自粛”のために桜の開花、花見も忘れ季節感なく時がすすんでゆきました。そんななか、梅雨になると今度は、九州熊本、中部地方中心が「令和 2 年 7 月豪雨（気象庁命名）」に見舞われ、観測史上最高の降雨量をもたらし、熊本、球磨川流域はじめ各地に甚大な被害が発生しました。また、9 月には台風 10 号が、瞬間最大風速 80m/秒の過去最強クラスで本土に迫り、改めてわが国が災害列島であることを思い知らされました。

この間も、新型コロナウイルス感染症は拡大し、4 月 11 日の緊急事態宣言後、一旦収束傾向をみせたものの 7 月から第 2 波、11 月から第 3 波が訪れ、大阪では 12 月 7 日に“府民に対する非常事態基準”を超え、通天閣が赤く染まるなど暗いニュースが続きました。

このような中、われわれを勇気づけた明るい知らせは奇しくも同じ日に報道された「はやぶさ 2 号」の偉業でした。はるか 50 億キロ先の小惑星からサンプルを採取して困難を乗り越え地球に戻ってきました。そして、カプセルを地球に送った後、はやぶさ 2 号は次の目標に向かい、再び旅立って行きました。6 年間に及ぶ数々の困難のなか、プロジェクトに携わった人たちはわたしたちに、希望を胸に目標に向かって進み続けることの大切さを教えてくれました。

わたしたちが目指すのは、入所者さん、ご利用者の笑顔です。コロナ禍でややもすれば笑顔が消えてしまいそうな年明けですが、このような状況下こそ力を合わせてこころ一つにし、再び旅立ったはやぶさ 2 号のように目標に向かって進んでゆきたいと思います。



当苑にて現在進行形で取り組んでいるいろいろなこと。ご紹介します！今回はメディカルによるグループOT 喫茶についてです。OT リハビリ長 泉谷、栄養科にお話を伺いました。

取組NOW

「喫茶和らぎ」を始めたきっかけは何ですか？

ー この活動のきっかけは、Aさんをよろこばせたい思いからでした。喫茶メンバーのひとりであるAさんは、人との関わりは好まれるが、日常生活では臥床傾向にある方でした。近所の喫茶店に行くときや、それに向けてのリハビリは意欲的に取り組まれましたが、それ以外はモチベーションが上がらず、なかなか離床を促すことも難しかったです。そこで、Aさんの好きな「喫茶」を活動の要素として取り入れ、定期的の実施できて他のご利用者も一緒に取り組める「喫茶和らぎ」をはじめました。



スタッフとして参加されているご利用者の様子は開始時と最近でどう変わられましたか？



ー Bさんの変化 2017年5月の第1回目の話合いの様子は、集中ができておらず、司会者（作業療法士）を見ずに違う方をみていました。司会者が聞いても返事もせず、笑顔が少なく、全体に対する呼びかけには応答しませんでした。そのため、自発性が向上する方法を検討しました。2018年11月の話し合いでは、司会の話やメンバーの意見を集中して聞けるようになり、意志表出する場面で自発的に自分の意見を発言できるようになりました。出張カフェや宣伝活動など新しい試みにチャレンジし、積極的に引き受けてくれるようになりました。喫茶開催場面では、積極的に接客できるようになりました。また、喫茶活動を想定した個別作業療法で、集中して取り組めるようになり、生活場面でも病棟で出会うと、自ら大きな声で呼び、喫茶活動の内容を訴えたり、喫茶の宣伝をしたいと訴え、一緒に宣伝することが多くなりました。“喫茶活動”をとおして、内発的動機付けが促され、自発性が向上しました。これは、iPadなどのコミュニケーションツールを用いて、意志表出できるように環境設定したことで、自らの意志を表出することができ、相手に伝えることができた達成感や、他の運営メンバーの積極的な発言や思いを表出している姿を見て影響を受け、さらに自発性が向上しました。喫茶活動でウェイトーをしている姿を“客”から褒められ、アンケートでも称賛のコメントをもらうなどの成功体験により、さらに意欲的になりました。



今後の目標はありますか？

— 喫茶のイメージを持ってもらうために地域の喫茶店見学を行い、飾り付け、雰囲気、店員さんの仕事ぶり、味などを視察した。四天王寺悲田富田林苑に出向き、出張カフェを行った。などのような地域交流も行った。地域交流を発展させていきたいと考えます。

アピールをお願いします！

— 意志を表出し、自発的に参加して成功体験を積む活動は、重症児（者）が生きがいのある生活を過ごすために極めて重要であると思います。喫茶和らぎは一人ではできません。ご利用者、ご家族、栄養士の皆さん、心理士さん他のOT、病棟職員、全職員のおかげでこの企画を始め、継続できたと思う。私自身もこのような素晴らしい成長発達の支援ができ、和らぎ苑で勤務している事、OTとして働き、とてもよかったと考えます。ご利用者らしい豊かな人生を過ごしていただくために“喫茶和らぎ”を発展させていきたいと考えます。

デザート等を準備して下さる当苑の栄養科にもお話を伺いました。

— 毎回 GOT 喫茶を楽しみにして頂き、ありがとうございます。昨年度は、GOT 喫茶で飲み物の提供に加え、デザートの提供もさせて頂きました。私たち栄養士は、たくさんのアイデアを出し合い、「毎月皆さんに季節感を味わいながら、美味しいと満足して頂けるデザートを召し上がって頂きたい」という想いで、毎回デザートを考えております。

例えば、2月はバレンタインにちなんだチョコレート味のデザートを提供しました。濃厚なチョコレート味のムースに、イチゴ味のシロップでピンクに色付けした生クリームをハートに絞り、可愛く飾り付けたデザートに仕上げました。また、7月には、太陽に向かって咲く元気なひまわりをイメージしたデザートを提供しました。ほんのり甘い紅茶のゼリーの上に、さっぱりしたレモン味のシロップで黄色く色付けした生クリームをカップの淵に沿って絞り、花びらを表現しました。皆様には見た目も可愛く好評で、味も美味しいと喜んで頂きました。

新しいデザートを検討する際は、皆様に安全に召し上がって頂くために、毎回試作を重ね、硬さやばらつき、べたつきなどに問題がないかなど調理師・栄養士で確認を行っています。例えば、そのときの食材の特徴によって、いつも通りの作り方では上手く行かないこともあるため、牛乳やお湯を入れる量を変えたものをいくつか作り、どの硬さが安全に召し上がって頂けるかなどを何日も前から計画を立て検討し、GOT 喫茶当日に一番良いものを提供できるようにしております。

今後も皆さんに喜んで満足して頂けるよう栄養士一同努めて参ります。GOT 喫茶にご来店頂き、心も体もほっと一息できる時間をお過ごし頂ければ幸いです。





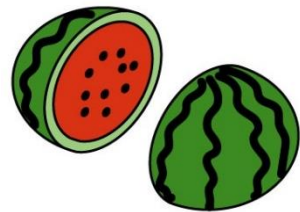
8月20日に**肝試し**をしました。部屋を暗くして恐ろしそうなBGMを流して肝試しをよりリアルに体験してもらえるように雰囲気作りをしました。



薄暗い部屋に入ったとたんに緊張して身体を強張らせ少しの物音でビクンッと大きく驚く利用者さんもいれば、入ってから出るまでずっとニコニコしている方、何があろうとお構いなしの涼しい表情の方など反応は様々でした。利用者さんを驚かせようと次から次へと汗だくで頑張る職員も外から見ていて面白かったです。みんなで楽しめたちょっぴり恐ろしい**肝試し**でした。



晴れ渡った空の下、ベランダに出て夏の風物詩**スイカ割り**をしました！ 割る前にご利用者とスイカに触れて手触りや大きさ、形や重さなど感触を楽しみました。いざ**スイカ割り**、スイカの前でグルグル回転した後、一生懸命に狙いを定め、手に持った棒で振りかぶってパコン！と叩きました。身のぎっしり詰まったスイカはなかなか割れず、とても手強い相手でした。しかし、みんなで力を合わせ、最後



は見事、真っ二つに割ることができました。割れたスイカを見るご利用者の笑顔は「やったぞー！！」と言わんばかりに輝いて見えました。



9月12日(土曜日)に**和敬の集い(敬老祝賀式)**が開催されました。今年度はコロナウイルスの対応で、ご家族の参加は見送る判断とさせて頂き、ご家族にとってはお楽しみにされた方もおられるのは非常に心苦しい限りでございます。



式典では、施設長の挨拶から始まり60歳以上(今年度60歳を迎える方も対象)のお名前を紹介させて頂き、各ご利用者には記念品贈呈させて頂きました。その後記念撮影も行い、式典も滞りなく終了いたしました。

ご利用者には、元気で長生きし人生を謳歌して頂きたいと言うのは和らぎ苑全ての職員の願いでもあります。来年もご利用者が元気にこの会を迎えられるよう、ご利用者に関わる職員一同、サポートして参りたいと思っていますので今後ともよろしくお願い致します。



発行者：四天王寺和らぎ苑広報委員会
ホームページ

四天王寺和らぎ苑

検索

〒584-0082 富田林市向陽台 1-3-21

Tel : 0721-29-0836(代)

Fax : 0721-29-3916